

**事業所名** グループホーム 敬愛

日付 平成 20年 5月 29日

**評価機関名** 有限会社 アウルメディカルサービス

評価調査員: 薬剤師・介護支援専門員

介護経験歴 7年

自主評価結果を見る (工事中)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)(記述式)

近隣には学校や病院が数多くあり、緊急時や夜間対応もしやすい環境です。また人とのふれあうことができやすい環境下の施設です。特に方針として医療に力を入れていて、看護師が常駐し入居者のニーズに応え、入居者に安心を提供しています。

入居者の楽しみである食事やおやつには特に力を入れています。メニューは栄養士が立て、すべて食事は手作りをしています。食事の団欒が楽しく過ごせるように駐車場を広く確保し、家族の参加をやすく、家族とともに過ごせる空間作りを図って、より快適な日々の食事時間を目指しています。

また、施設内の清掃も隅々まで行き届いていて気持ちの良い施設になっていました。また個別ケア連絡帳を作り、入居者の情報が、職員全体へ速やかに伝わるようにしていました。

特に改善の余地があると思われる点(記述式)

居間の飾り付けが施設的です。また、必要でない備品が玄関や踊り場にあるので、整理ができればもっと家庭的ですっきりとした空間になると思います。

入居者のレベル差もありますが、それぞれ3つのユニットは雰囲気まったく違います。職員の意識の中にも「自分のユニットは」という見解もあり、職員の対応の仕方もまちまちです。職員を含めた交流をすることで、より良いユニット作りにつながると思います。また地域との繋がりを感ぜませんでした。出かける回数が少ないようなので、地域の人たちに来てもらえることを考えましょう。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	「入居者、一人ひとりを大事に敬っていきたい。出来る事を入居者に対して地道に提供して行きたい」と考えています。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	寄り添いや会話をして落ち着いてもらっています。職員は「普通にしているだけ」と言っていました。常に話しかけ、よく言葉かけをしていました。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	部屋の扉には、風通しが良いので、暖簾を掛けています。暖簾は、直接中がのぞかれないようプライバシー保護に役立っています。またさらに、プライバシー保護を考え、面会名簿は一枚ずつ記入し、事務所で管理しています。入居者が他の方の部屋へ入室しないように職員は見守りをしていました。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	夜間排泄に行こうとして転倒する入居者がいたので、熟睡してもらうように夜間は言葉かけをやめました。また、ベッドから立ち上がった分かるようにセンサーを付けました。職員のレベルアップのため、施設内での研修を前向きに取り組んでいます。外部研修も職員自ら進んで参加し、全体で報告し合うことで、向上へのステップアップに役立っています。		